

## 研究主題

# 社会に開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメント

## — つながり重視した学校の特色づくりを通して —

### 目次

第1	研究の概要	4
第2	研究の背景とねらい	5
第3	研究の方法	6
第4	研究の内容	7
1	カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等の開発	
2	研究協力校におけるカリキュラム・マネジメントに係る取組	
	事例1 「足立区立伊興小学校の事例」	8
	事例2 「狛江市立狛江第一中学校の事例」	10
	事例3 「東京都立足立東高等学校の事例」	12
	事例4 「東京都立城東特別支援学校の事例」	14
3	研究のまとめ - 開発物について -	16
第5	研究の成果と今後の取組	22

### < 研究の成果と活用 >

#### 1 研究の成果

研究協力校での検証等を基に作成した、教員のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組について自己の評価ができる「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート」及び見いだした問題点の解決に資する「改善例」の作成

#### 2 研究成果の活用

「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート」及び「改善例」を活用した各教員のカリキュラム・マネジメントに関する意識及び取組の向上

## 第1 研究の概要

学習指導要領の改訂	東京都の主要施策
<p>「社会に開かれた教育課程」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校づくり</li> <li>・「カリキュラム・マネジメント」の充実</li> <li>・これからの学習指導要領等には「学びの地図」としての役割</li> <li>・家庭・地域との目標（育てたい資質・能力）の共有</li> </ul>	<p>子供を取り巻く環境の変化、家庭や地域の子育て機能・教育力の低下が指摘される中、子供たちが健全に成長していくための環境づくりが必要である。特に都市化、核家族化や女性の社会進出が進み、地縁が希薄になる中で、社会全体で子供を見守り、健全育成を推進するためには、学校や地域社会がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりが重要である。東京都教育ビジョン（第3次・一部改定 平成28年4月）</p>

### 求められること

- ・学習指導要領、教育課程等を全教職員で共有すること
- ・教科等や学年を越えた組織運営に改善すること
- ・家庭・地域との連携 ・人的・物的資源を活用すること

研究主題 **社会に開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメント**  
— つながりを重視した学校の特色づくりを通して —

### 研究のねらい

特色のある教育課程の編成を一層推進するために、各教員のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の向上を図る。

### 研究の推進に当たっての考え方

各教員のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の向上に資する自己の評価ができる資料等の開発

### 研究の内容

- 1 カリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の向上に資する自己の評価ができる資料（カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート）の開発
  - ・各教員が日々取り組んでいる教育活動について、教科等横断的、P D C A、教育資源（人的・物的）の三つの側面から自己の評価ができる資料の開発
  - ・自己の評価の結果から自分自身の取組や学校全体の傾向を可視化した資料の開発
- 2 カリキュラム・マネジメントに係る取組についての改善例等の提示
  - ・各教員の自己の評価結果から考えられる課題と改善例の提示
  - ・カリキュラム・マネジメントに係る研究協力校の事例の提示
- 3 研究協力校での検証及び事例収集
  - ・カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの実施（研究協力校の教員）
  - ・研究協力校の教員のアンケート調査
  - ・カリキュラム・マネジメントの取組の事例収集

各教員がカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の状況を把握し、改善につなげる自己の評価ができる資料等の開発

## 第2 研究の背景とねらい

### 1 社会に開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメント

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日）では、これからの教育課程について「社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受け止めていく『社会に開かれた教育課程』としての役割が期待されている。」と述べられている。このような「社会に開かれた教育課程」としては、「①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育ていくこと。③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。」が重要になると示された。各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」である。

### 2 学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメント

小学校学習指導要領（平成29年告示）「第1章 総則 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割」では、「4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。」と示されている。中学校学習指導要領（平成29年告示）及び高等学校学習指導要領（平成30年告示）においても同様に示されている。このカリキュラム・マネジメントについては、次の三つの側面から捉えることができる。

第一の「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」については、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成したり、児童（生徒）の生活時間と教育の内容との効果的な組合せを考えたりしながら、年間や学期、月、週ごとの授業時数を適切に定めたりしていく」ことが求められる。その際、『何を学ぶか』という教育の内容を選択して組織していくことと同時に、その内容を学ぶことで児童（生徒）が『何ができるようになるか』という、育成を目指す資質・能力を指導のねらいとして明確に設定していくことが求められていることに留意が必要である」というように、育成を目指す資質・能力を指導のねらいとした教育課程の編成をする必要がある。

第二の「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」については、「各種調査結果やデータ等を活用して、児童（生徒）や学校、地域の実態を定期的に把握し、そうした結

果等から教育の目的や目標の実現状況や教育課程の実施状況を確認し分析して課題となる事項を見だし、改善方針を立案して実施していく」ことが求められる。その際、「必要な体制や日程を具体化し組織的かつ計画的に取り組んでいくことが重要である」というように、比較的直ちに修正できる課題か又は教育委員会等と連携しながら長期的に改善を図る必要がある課題か等、課題の状況に応じて組織的かつ計画的に取り組む必要がある。

第三の「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと」については、「教育課程の実施に当たっては、人材や予算、時間、情報といった人的又は物的な資源を、教育の内容と効果的に組合せていくこと」が重要となる。そのためには、「特に、教師の指導力、教材・教具の整備状況、地域の教育資源や学習環境（近隣の学校、社会教育施設、児童（生徒）の学習に協力することのできる人材等）などについて（客観的かつ）具体的に把握して、教育課程の編成に生かすことが必要である」というように、人的又は物的な体制の実態を十分考慮した上で教育活動の質の向上を組織的かつ計画的に図る必要がある。

また、同学習指導要領では「校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする」と示されおり、学校全体でカリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。

### 3 東京都の取組と本研究の意義

「東京都教育ビジョン（第3次・一部改定）」（平成28年4月）の取組の方向8「質の高い教育環境を整える」では、主要施策に「学校運営力の向上」を掲げ、「チームとしての学校が機能するよう、専門性をもったスタッフの活用や地域との連携による『東京都版チーム学校』について、多面的な視点から今後の学校運営の在り方を検討する」こととしている。この「チーム学校」の実現に向け早急に取り組むべき方策として、「東京都におけるチームとしての学校の在り方検討委員会報告書（平成29年2月）」では、「学校マネジメントの強化」、「教員と専門人材の役割分担と連携の在り方」、「地域との連携による学校教育の充実」が示されている。

取組の方向10「地域・社会の教育力向上を図る」では、主要施策に「地域等の外部人材を活用した教育の推進」を掲げ、「地域の実情や学校のニーズに応じた、地域等の多様な外部人材の参画による教育支援活動を展開する」ために、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の活用、区市町村の中学校区を基本とした「学校支援ボランティア推進協議会」設置の促進や、「教育庁人材バンク」の活用をすることとしている。また、都立学校では学校運営連絡協議会の活性化により、地域社会や保護者の意見を適切に学校経営に反映させることとしている。

東京都教職員研修センターにおいても、管理職対象の研修や年次研修でカリキュラム・マネジメントについての研修を行っている。しかしながら、学校現場においてカリキュラム・マネジメントは管理職や一部の教員が行っていくものという誤った認識をしたままの教員も少なからずいることが考えられる。校長の学校経営計画を具現化し、学校の教育目標を達成するために、全ての教員がカリキュラム・マネジメントを担う者として、学校経営に参画することが大切である。そのために、各教員のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の向上を促す手だてが必要であると考えた。

### 第3 研究の方法

## 1 カリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の自己の評価ができる資料の開発

各教員のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組を確認し、その向上を促すために、「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート」を開発した。本シートは、カリキュラム・マネジメントの三つの側面に基づき、「教科等横断的な視点について」、「人的資源について」、「物的資源について」の三つの観点を設けた。そして、Plan（編成）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の四つの段階について三つの観点から各教員がカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組について自己の評価をし、日々の教育活動を振り返ることができるようにした。

## 2 改善例や実践事例について

各教員が本シートを実施して得られた自己の評価結果を基に、考えられる課題例とそれに対応した改善例を提示することにより、カリキュラム・マネジメントに係る意識を高めることや授業改善に取り組むこと等ができるようにした。改善例については、各学校及び教員の実態に適した解決方法を考えられるように複数提示できるようにした。実践事例を併せて掲載することで各教員が学校経営への参画や授業改善等に役立てられるようにした。

## 3 研究協力校での検証、カリキュラム・マネジメントに係る取組についての情報収集

カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの設問や改善例等が、各学校及び教員の課題解決につながるようにするために、各研究協力校の教員を対象にカリキュラム・マネジメントセルフチェックシートを実施した。実施後、設問の内容や改善例等についてのアンケート調査を行い、その意見や感想を基に、設問や改善例等の修正を行った。

### (1) 研究協力校

足立区立伊興小学校

狛江市立狛江第一中学校

東京都立足立東高等学校

東京都立城東特別支援学校

### (2) 検証、カリキュラム・マネジメントに係る取組についての情報収集

研究協力校4校の教員を対象にカリキュラム・マネジメントセルフチェックシートを実施し、設問や改善例についての意見や感想を収集した。また、管理職を対象にカリキュラム・マネジメントに係る取組について、聞き取り調査等を実施した。

ア 7月～8月 カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの実施  
各設問についての意見や感想、改善案の収集

イ 9月～10月 カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの設問、改善例等についての意見や感想、改善案の収集

ウ 10月～12月 各校のカリキュラム・マネジメントに係る取組についての事例収集

## 第4 研究の内容

### 1 カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等の開発

カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの開発及び改善例等の収集を行った。研究協力校4校にて本シートの検証及び改善例についての意見等を収集し、修正を行った。

### 2 研究協力校におけるカリキュラム・マネジメントに係る取組

研究協力校4校において、管理職を対象に、主に「本校の特色」、「学校教育目標等の教員間の共通理解について」、「人的・物的資源の活用について」に関する情報収集を行い、カリキュラム・マネジメントに係る取組を可視化し、実践事例としてまとめた。

## 事例1 足立区立伊興小学校の事例

### (1) 本校の特色

校舎改築が終了し、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で教育活動を展開している。明るく素直な児童が多く、学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全教員が共通理解を図りながら、素早く、組織的に対応している。学校に対する地域・保護者の期待は大きく協力的である。

本校は、「夢や希望を育む学校づくり」を学校経営の基本理念とし、児童の「自己肯定感や自尊感情の涵養」を重点目標に掲げて教育活動を行っている。多様な取組による一人一人の確かな学力の育成や、学校行事による幅広い活躍の場の設定などはその一例である。例えば、体育的行事である「持久走記録会」では、児童一人一人に目標や達成感をもたせるために、表彰の対象はタイムが上位の児童だけではなく、完走した児童に渡す完走賞や、本校独自の賞である「ピタリ賞」を設定して、一人一人の児童の努力が認められるようにしている。「ピタリ賞」は、自分がこれまで練習してきた記録を基に設定したタイムと当日のタイムが前15秒から、後35秒までの間に入った児童に授与される。

また、人や物（自然）との関わりを通して、豊かな人間性を培うために、地域の人的・物的資源を各教科等の中で効果的に活用している。具体的には、ゲストティーチャーとして地域の方の招へい、地域の保育所の児童との継続的な交流、地域の中学校における部活動・授業体験、地域行事やPTA行事への参加、開かれた学校づくり協議会主催の土曜事業への参加、ネイチャーゲーム等の地域の自然と触れ合う活動等を行っている。

### (2) カリキュラム・マネジメントに係る取組

本校教員は、日々児童の実態を基に教材研究を行い、熱意をもって指導に当たっている。若手教員とともにベテラン教員も多く、教員経験年数のバランスがとれているという本校の強みを生かし、OJTを通じた学習面・生活面に関する指導力の向上を図るシステムが確立されつつある。本校では、各教員がカリキュラム・マネジメントを行うに当たり、教科等の目標の達成だけではなく、学校の重点目標等も達成する必要があるとの考えから、全教員で教育活動全体を見渡して重点目標等をよりよく達成するために、「グランドデザイン」(図1)を作成した。

この「グランドデザイン」は、本校の重点目標である児童の「自己肯定感や自尊感情の涵養」を中心として、「学校行事の取組」、「確かな学力の育成」、「特色ある教育活動の充実」、「保護者の協力・地域の参画」、「教員の資質・能力の向上」、「安心・安全な環境づくり」のつながりを可視化し、全体像をすぐに把握できるものとしている。日々行っている教育活動や研修等が学校の教育活動全体にどのように位置付けられているのか、地域と学校がどのようにつながっているのか、このグランドデザインを基に全教員で定期的に本校の教育活動を評価し、校務分掌の各担当者が中心となって改善案を考え、次の教育活動につなげていこうとしている。

今後、職員室にグランドデザインを拡大して掲示し、常に確認できるようにすることや、具体的な達成目標を設定して、達成した事項には印を付けていくことなどの工夫が考えられる。また、学校便りや学校のWebページ等を用いて保護者や地域等にグランドデザインを発信し、本校の重点目標や教育活動について学校と家庭・地域が共通理解を図り、共に児童の学びをより豊かなものにしていくことを目指している。

### (3) グランドデザイン

教員一人一人が目指す学校像や児童像を常に思い描き、その実現に向けた道筋を可視化できるようにした。

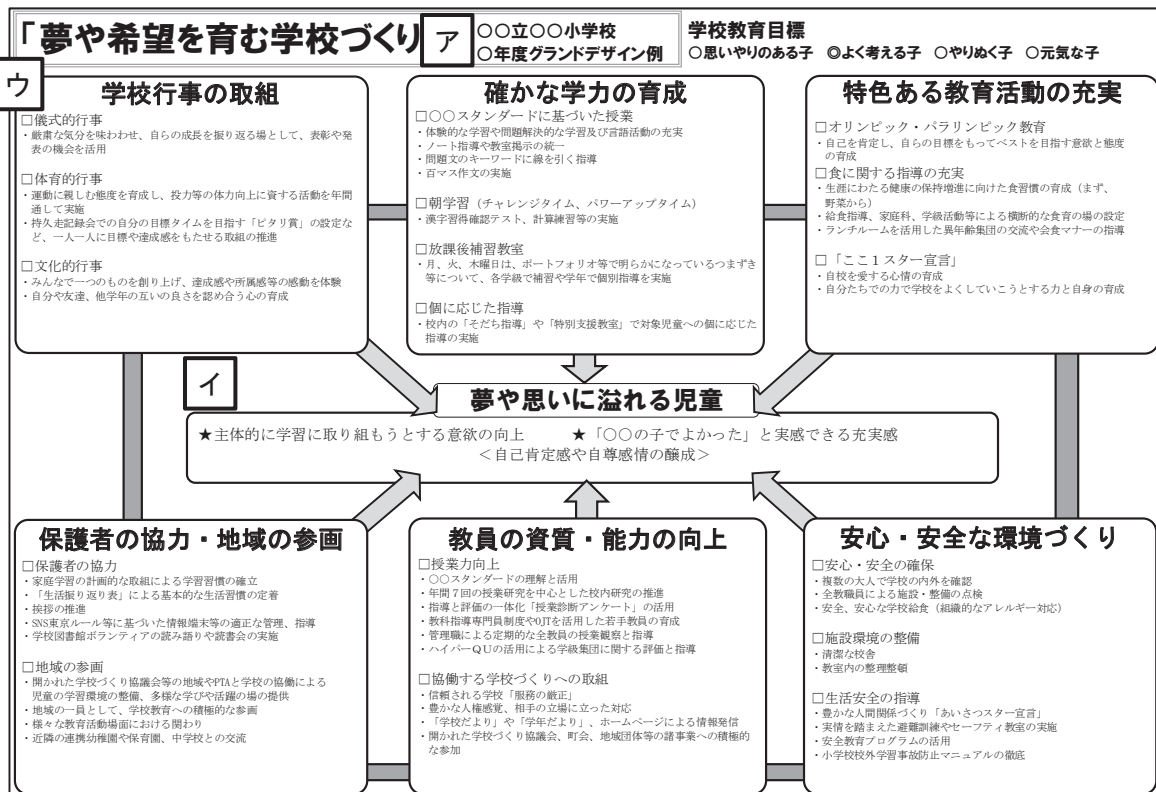


図1 グランドデザイン

#### ア 目指す学校像、学校の教育目標

カリキュラム・マネジメントにおいて重要なことは、学校の教育目標の実現に向けて展開していくことである。グランドデザイン(図1)は、児童や保護者、地域の方々の願いや期待を踏まえ、組織として取り組むべき事項の目指す学校像や児童像の実現を図るため、学校教育全体という広い視点から課題と方策を明確にして描いたものである。

#### イ 重点目標等

本校の目指す児童像「夢や思いに溢れる児童」と重点目標「自己肯定感や自尊感情の醸成」を記載している。重点目標を実現するための具体的な取組が、下記ウの六つの教育活動から矢印でつなげられ、目標に至る道筋を可視化している。本校では、12月～2月の学校評価の時期に教員全体で各教育活動を捉え直し、評価するとともに、次年度に向けての改善案を検討している。

#### ウ 各教育活動等

学校の重点目標の達成を支える各教育活動等を六つの項目で記載している。六つの項目である「学校行事の取組」、「確かな学力の育成」、「特色ある教育活動の充実」、「保護者の協力・地域の参画」、「教員の資質・能力の向上」、「安心・安全な環境づくり」の中にそれぞれ具体的な活動等を記載している。さらに、具体的な達成目標を記して達成すると印を付けることなどが考えられる。また、重点目標の他に、教育課題(例：プログラミング教育、外国語教育等)を設定した場合、その解決のために必要な教育活動等を書き入れる工夫も考えられる。

## 事例2 狛江市立狛江第一中学校の事例

### (1) 本校の特色

本校は、教育目標の重点項目を「自尊感情の向上を基盤とした人権感覚の向上」として、生徒が自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることを通して、知識・理解だけでなく態度や行動に現れるようにすることに取り組んでいる。具体的には、自他の生命を尊重できる力、「いじめ」を許さない意思と「いじめ」をなくす行動力の育成を目指している。また、自尊感情を高め、学習意欲や基礎的な学力の向上を図るために、「やった」、「わかった」、「できた」という学習の成就感をもてるようにし、さらに「もっと学びたい」、「学ぶことは楽しい」という意欲の向上をねらって教育活動に取り組んでいる。

本校の特色として、生徒の取組を意図的・計画的に自尊感情の向上に結び付けるため、毎年、「東京都教育委員会児童・生徒等表彰」へ応募する取組を実施している。その結果、平成26、27、28、30年度には、表彰を受けている。また、多くの外部人材をゲストティーチャーとして招へいしている。保健体育では「スーパーアスリートからの学びを、自分の自信へ、体力の向上へ」をテーマに、アスリートとの交流を行った後、振り返りを行い、アスリートの取組から学んだことや考えたことを今後の生活や学習に生かせるようにしている。道徳では、ゲストティーチャーが「生徒会の歌」づくりに協力したり、周年行事でコンサートを行ったりしている。このような取組によって外部人材との関わりが深まり、自他を認める活動を通して自尊感情の向上に結び付いている。

さらに、外部の物的資源の活用としては、主に近隣の高齢者福祉施設との交流や、近隣の商業施設等、約40の職場での職場体験など、幅広く行っている。

### (2) カリキュラム・マネジメントに係る取組

学校の重点項目の共通理解を図るため、4月には、異動等により新たに着任した教員等を対象として、重点項目に関するミニ研修を行っている。また、6月には、全校生徒を対象に「自尊感情測定尺度（東京都教職員研修センター）」を実施している。8月の研修会では、支援が必要な生徒の状況をデータで示し、生徒に関する情報の共有を図り、生徒理解に努めている。加えて、教員の意識の向上を図るために、自己申告書に自尊感情を向上させるための具体的な項目を記入するようにしている。さらに、学習指導案や行事の実施計画に必ず自尊感情を向上させるための視点を記入することで、教員一人一人がその達成に向けて意識的に取り組んでいる。

各教科の年間指導計画は、「学習分野・単元」、「学習目標（学習内容）」、「評価の観点」、「評価の規準」、「道徳教育との関連」、「言語能力育成のための教科の重点」の項目を設け、横断的な視点を基にそれぞれを関連付けて作成している。さらに、各教科等の学習内容を一覧にすることで、教育活動全体を俯瞰<sup>ふかん</sup>して見られるように「年間指導計画一覧」（図2）を作成している。「年間指導計画一覧」の作成に当たっては、重点項目を教育活動の中心に据えて、カリキュラム・マネジメントの教科等横断的な視点をもって各教科等の学習内容の結び付きを把握できるようにしている。重点項目と関連している学習内容に色付けすることで、各教科のつながりが明確になっている。今後、より教科等横断的な視点を意識して、類似した学習内容や関連のある学習内容を整理して同時期に行うことにより、教育目標の重点項目の実現を目指している。



(3) 年間指導計画一覧

下の図2は、教育目標の重点項目との関連を表した各教科等の年間指導計画一覧である。

年間指導計画一覧例(〇〇立〇〇中学校)第1学年		教育目標の重点項目 【自尊感情の向上を基盤とした人権感覚の向上】 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが、知識・理解だけでなく態度や行動に現れるようにする。 →自他の生命を尊重できる力 →「いじめ」を許さない意思と「いじめ」をなくす行動力											
国語	野原は歌う 花蜜りの向こう	5月 分かりやすく説明しよう アイコンは大きな横	6月 ちょっと立ち止まって 日本文化ガイド	7月 空を見上げて 読書生活を豊かに	8月 星の花が降るころに 大人になれなかった勇たちに...	9月 シカの「落ち穂拾い」 調べたことを報告しよう	10月 竹取物語 幼い命は生きていた	11月 書き 楷書・行書	12月 書き初め 鑑賞文を書く	1月 少年の日の思い出 流氷と私たちの暮らし	2月 調べたことを報告しよう スクリーンショットをしよう	3月	
社会	世界の様々な地域 世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域 アジア州	歴史の流れを捉えよう 日本列島誕生と大陸との交流、古代国家の歩み、アジアの世界	中世の日本 武士の台頭と鎌倉幕府	世界の諸地域 ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州	世界の様々な 地域の調査							
数学	正負の数 符号のついた数、四則計算	文字と式 文字、式の読み取り	方程式 解、方程式と比	比例・反比例 座標、グラフ	平面図形 作図、移動、おうぎ形	空間図形 角錐、円錐、体積、表面積	資料の散らばり 代表値、近似値						
理科	植物の生活と種類 花、葉、茎、植物の分類	身近な物理現象 光の性質	音の性質 音の伝わり方、音の大小と高低の原因	力と圧力 重さと質量、力を表す単位と矢印、水圧と浮力	大地の変化、火山 地層、地震、大地の変動								
音楽	勇る(歌う) 歌唄の基本、拍の流れ	混成2部合唱の響き ト音階表、ヘ音階表	指揮法の基礎 拍子	曲の構想 ビルディイ「春」	旋律の役割 「変わらないもの」	合唱祭 課題曲・自由 リズム創作	日本の伝統文化 和太鼓	日本の唱歌 ふるさと	日本の民謡 アジアの音楽	場面の変化 シチュエーション作曲 「魔王」	多声的な旋律の重なり 「時の旅人」		
美術	オリエン テーション	素描 「物をもつ手」	色の学習 色相環、グラデーション	鑑賞・デザイン 美術館レポート	工芸「木工バズルの制作」 用具、道具の扱い方、アクリル絵の具の着彩方法、作品の鑑賞		鑑賞 「4点のみまわり」	デザイン「創作文字」 豊かな発想とアイデア					
保健 体育	男 体つり運動 陸上競技、ソフトボール、保健	女 体つり運動 陸上競技、バスケットボール、保健	水泳 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、保健	武道 剣道	短・長距離、保健	ダンス マツ運動	保健、サッカー、バスケットボール						
技術・家庭 技術分野	技術とものづくり 技術の発達と生活	材料の特徴・設計 構想図・製図演習	生育環境 基礎的な栽培の技術	木工製作 安全・のこぎり	情報とコンピュータ 情報と生活	加工・組み立て等	各装置の役割 様々な機能の練習	起動・終了 招待状の作成					
技術・家庭 家庭分野	生活の自立と衣食住 自分らしく清潔に暮らす	日常着の着方 衣類の制と着用の仕方	洗濯の仕方 手入れ	これからの衣生活 手入れや補修(実習)	基礎縫い(小物作り(実習))	快適に住まう 住まいの働き	家族と共に住まう 健康で快適に住まう	自然と共に住まう 人間の様々な生活環境					
外国語	アルファベット (ローマ字も含む)	Let's Talk! 始めよう Let's Talk! 始めよう	W&S曜日と教科 Let's Talk! 始めよう	W&S季節と月 Let's Talk! 始めよう	Let's Talk! これだれの? Let's Talk! これだれの?	辞書 インタビュー	Let's Talk! 電話をしよう Let's Talk! 公園に行こう	Let's Talk! どうして好きなの? 大切なものを紹介しよう	Let's Read Alice and Humpty Dumpty				
特別の教科 道徳	思いやり、感謝 生命の尊さ	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝	思いやり、感謝 思いやり、感謝 思いやり、感謝
総合的な 学習の時間	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス
特別活動 (学級活動)	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式
学校行事等	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式	入学・始業式

図2 年間指導計画一覧

ア 教育目標の重点項目

重点項目「自尊感情の向上を基盤とした人権感覚の向上」や、重点項目に関連した育てたい力「自他の生命を尊重できる力」、「『いじめ』を許さない意思と『いじめ』をなくす行動力」が記されており、常に確認できるようにになっている。(図3)

イ 各教科等及び学習内容

縦に各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動、学校行事等を記載している。また、横に4月～3月までの各教科等の学習内容を記載している。重点項目と関連する学習内容を色付けすることで、各教科間の関連が明確になり、教科等横断的な視点をもって指導計画を立案することができる。(図2、図4)

この一覧を用いて、重点項目と関連する学習内容についての共通理解を図り、各教員が教科等横断的な視点で教育活動に取り組めるようにしている。

教育目標の重点項目 【自尊感情の向上を基盤とした人権感覚の向上】 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが、知識・理解だけでなく態度や行動に現れるようにする。 →自他の生命を尊重できる力 →「いじめ」を許さない意思と「いじめ」をなくす行動力
--

図3 教育目標の重点項目

	4月	5月	6月
特別の教科 道徳	思いやり、感謝 生命の尊さ	家族愛、家庭生活の充実 節度、節制 向上心、個性の伸長	思いやり、感謝 自主、自律、自由と責任 希望と勇氣、克己と強い意志 友情、信頼
総合的な 学習の時間	ガイダンス 情報モラル		地域に関する課題設定
特別活動 (学級活動)	中学生になって/生活について 学習の目標と心構え(中間考査に向けて) 組織づくり/議案書討議 校外学習に向けて	校外学習に向けて組織づくり 学習の目標と心構え(中間考査に向けて) 体育祭への取組	体育祭に向けて 学習方法の工夫 計画的な学習(期末考査)
学校行事等	入学・始業式 離任式	生徒総会 校外学習 中間考査	体育祭 期末考査

図4 学習内容(一部抜粋)

### 事例3 東京都立足立東高等学校の事例

#### (1) 本校の特色

本校は、エンカレッジスクールであり、教育目標として「心身ともに健康で、知性と感性に富む人間性豊かな都民を育成する」を掲げている。

本校の特色は、『集中力を涵養する』ことを目的として第1学年の午前中に編成した、国語・数学・英語・地理・現代社会の30分授業、「生徒の力に応じた国語・数学・英語での2クラス4展開の習熟度別授業」、「理科・家庭科等における2クラス3展開による少人数クラスでの授業」、「第1学年では週2回、第2学年では週1回、午後の時間に体験学習の実施」、「第3学年では週1回、自己の生き方や進路を考えるキャリアガイダンスの実施」、「第1、第2学年において一人一人に指導が行き届く二人担任制の実施」等である。

体験学習は、体験Ⅰと体験Ⅱに分かれており、生徒は、体験Ⅰのスポーツ分野、文化・芸術分野、日本文化分野の講座から選択して授業を受け、体験Ⅱではボランティア学習、就業体験や資格取得につながる授業を受ける。この体験学習では、校内の教員が指導に当たるだけでなく、近隣の保育所、幼稚園や小・中学校をはじめ近隣自治会、福祉施設、病院、職業能力開発センターや市民講師とも連携するなど、外部の人的・物的資源を積極的に活用している。設定している講座として、地域の保育所で保育実習を行う「保育講座」、地域の福祉作業所や高齢者福祉施設と連携して介助体験等の活動を行う「福祉講座」、近隣の自動車専門学校での自動車やバイク整備、エンジンの仕組みを学ぶ「整備・工業技術講座」等、多岐にわたっている。

#### (2) カリキュラム・マネジメントに係る取組

本校では、外部の人的・物的資源を積極的に活用している。人的資源は、特に地域との信頼関係の構築により確保している。地域の自治会長からの紹介、区役所の地域振興課等（公民館、集会所）からの紹介、他の都立高等学校（農業科）からの紹介、体験学習で講師をした方からの紹介、学校運営連絡協議会の委員（地域との関わりを重視）からの紹介等で確保している。さらに、地域とのつながりを重視し、生徒が地域の行事やお祭りにボランティア等で参加することや、高齢者福祉施設と交流することなどの社会貢献活動等により、信頼関係を築いている。また、地域に根差した教育を目指し、学校で行われている教育活動に関する情報をWebページ等で発信するとともに、異校種と授業や部活動、行事等で交流している。

人的資源や物的資源を教育活動に効果的に活用するための取組として、実施した活動の詳細を記載し、次の担当教員へ円滑な引継ぎを考慮した、「人的・物的資源リスト」（図5）を作成している。「人的・物的資源リスト」には、活動名、市民講師や外部施設の連絡先だけでなく、「関連教科等」や活動の「主な内容」、「実施年度」、「講師料」、「引き継ぎ事項」等、体験学習を計画・実施する上で必要な事項を詳細に記入する欄を設けている。

(3) 人的・物的資源リスト

下の図5は、活用した人的・物的資源についての情報をリスト化した資料である。

年度	人的・物的資源リスト	講座	主な内容	施設名	氏名(担当者)	電話	住所	依頼年度	講師料	引継ぎ事項等(講師、使用物品費用について等)
1	公民	保育	保育実習 学童クラブ指導体験	〇〇保育園 〇〇学童クラブ						①体験時、保育園や学童クラブを見回る。 ②動きやすい服装にする。
2	公民	福祉(高齢者・障害者)	講義・介助体験	〇〇福祉作業所 〇〇高齢者福祉施設						①開始前までにセミナールーム1abを開けて、プロジェクターを置いておく。 ②体験時、校内(市民講師)と高齢者福祉施設、障害者施設を担当が見回る。 ③自転車を使用しなくても見回することは可能である。
3	理科	園芸農業	野菜や花の栽培について(講義) 栽培活動支援(月1回)		〇〇〇〇 〇〇〇〇					①開始前までにセミナールーム3aを開けておく。 ②ジャージ、軍手、タオルが必要である。
4	公民	手話	視覚障害疑似体験 手話うた、手話スピーチ							
5	美術	クラフト	ステンシル、ストラップ、黒板、棚、小物入れ、はんこ		〇〇〇〇					①教材を購入する。教室を片付ける。技術指導をする。
6	音楽	保育音楽	保育・音楽系進路に必要な音楽理論とピアノ実技							①音楽科の教員が担当となる。
7	情報	電子工作	電子回路や電機の仕組みについて学ぶ。							①基板回路の修理及び、動作確認をする。(3、4限) ②配慮:高電圧を使うので、落ち着かない生徒には十分注意する。
8	公民	ワーク・チャレンジ・プログラム	模擬的な会社を作り、実際に働く体験を行い、働く上で身に付けておきたい基本的なことを学ぶ。							①授業日の昼休みに講師の先生と打合せをする。ICT機器のセッティングをする。体験器具を準備する。
9	国語	読書と表現	ピリオオハトルの研究、実践を行い、プレゼンテーションの力を高める。	NPO						①前期受講者は東京都「ピリオオハトル」の大会に1名参加する。 ②前期・後期とも、校内で「ピリオオハトル」を2回程度実施する。
10	数学	電卓基礎	電卓の使い方学ぶとともに「速く、正確に」計算する技術を得る。		〇〇〇〇					①参加者分の電卓を準備する。
11	情報	情報検定	パソコンを利用した検定にチャレンジする能力を養う。		〇〇〇〇					①事前に検定問題(問題集と過去問)を用意し、人数分コピーしておく。
12	家庭	食物検定	栄養学・食品学・衛生学などの座学授業や実習を行う。							①食材購入(新鮮でなければいけないため授業にできるだけ近い時間に近隣のスーパーマーケットに行く。) ②調味料を計画的に購入する。(公費より) ③授業までに調理器具(炊飯器など)を出す。麦茶を準備する。授業後は使用したふきんの洗濯、調理器具をしまう。 ④筆記試験対策のための研究、問題集を印刷する。検定の申し込み(4月、10月)、合格者名簿等を作成、郵送する他。 ⑤家庭科教員が担当する。
15	国語	ペン習字	硬筆を用いた実用的なペン習字の練習をする。	〇〇会						
16	数学	数学検定	数学検定受験のために「数学」の勉強をする。							①数学科の教員が担当となる。
17	美術	色彩基礎	「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶ。							①美術科の教員が担当となる。
18	公民	ニュース検定	ニュースを中心に最新の時事問題を勉強する。							①特別教室にて行う。 ②毎回、実施する内容について授業準備をする必要がある。 ③年2回、ニュース検定の申し込みを行う。 ④特性上、公民科が担当すると良い。

図5 人的・物的資源リスト

ア 各項目

「関連教科等」には、教科等横断的な視点を踏まえて、体験学習の内容と関連する教科等を記してある。関連する教科が複数ある場合は、一つの教科だけではなく、複数の教科を記すことも考えられる。

「主な内容」には、活動の概要が記載している。(図6)

「講師料」の有無に関しては金額を明確にしておき、次年度も活動を継続する場合は、次年度の予算を計上するための資料としている。

また、「引き継ぎ事項等」には、次に誰が担当となってもその活動を円滑に進めることができるようにするために、事前の打合せの仕方や活用した講師、施設の情報、事前の準備、必要物品、校内の担当者等についての情報を具体的に記している。(図7)

関連教科等	講座	主な内容	施設名
2 公民	福祉(高齢者・障害者)	講義・介助体験	〇〇福祉作業所 〇〇高齢者福祉施設

図6 人的・物的資源リスト(関連教科等、講座、主な内容、施設名)

依頼年度	講師料	引継ぎ事項等(講師、使用物品費用について等)
〇年度	無	①開始前までにセミナールーム3aを開けておく。 ②ジャージ、軍手、タオルが必要である。
〇年度	〇円	

図7 人的・物的資源リスト(依頼年度、講師料、引き継ぎ事項等)

**事例4 東京都立城東特別支援学校の事例**

**(1) 本校の特色**

本校は、平成28年度に開校した知的障害特別支援学校であり、小学部と中学部を設置している。学校の教育目標を「知的障害のある児童・生徒一人一人の人権を尊重し、障害の状態等に応じた教育を推進するとともに、自立と社会参加に向けて、能力を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育成する」として、育成を目指す姿として四つの項目を掲げている。四つの項目は、「基本的生活習慣を養い、健康で豊かな心と丈夫な体を培う」、「学ぶ意欲・態度や働く意欲・態度を育み、主体的に生活する力を育てる」、「豊かな感性と、自分を表現する力を育てる」、「自分の仲間を大切にし、共に活動する力を育てる」である。

特別支援教育の推進に向けて、学校間、地域、関係機関との連携を強化することや、交流及び共同学習の推進と地域における福祉との連携を通して、本校のセンター的機能の強化を図っている。これまで、近隣の小学校や盲学校との交流及び共同学習を行ってきた。また、児童・生徒一人一人に応じた指導を行うことができるように、外部専門員と連携し、「個別指導計画」、「学校生活支援シート（個別の教育支援計画）」の作成と活用に努めている。さらに、学校運営連絡協議会の提言や学校評価を活用し、専門家や保護者と共に教育内容の改善を図っている。

**(2) カリキュラム・マネジメントに係る取組**

小学部と中学部9年間の系統的な学びを実現することができるように、「教科の目標」、「各学年の身に付ける資質・能力」、「評価方法」を記載した各教科等の「年間指導計画（シラバス）修正前」（図8）を作成し、活用していたが、他教科等とのつながりを考え、教科等横断的な視点で学習を進めることができるようにするために、新たに「他教科等との関連」等を記載した、「年間指導計画（シラバス）修正後」（図9）を作成した。

さらに、本校は、日常的に外部専門員等が児童・生徒の学習支援を行っていることから、各教員が外部専門員等の人的資源や物的資源の活用を意識すること

学部	小学部	教科等名称	図画工作
教科の目標	(1)形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。(知識・技能) (2)造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。(思考・判断・表現力) (3)つくりだす喜びを味わうとともに感性を育み、楽しく豊かな生活を創造する態度を養い、豊かな情操を培う。(学びに向かう力・人間性)		
	①(知識・技能)	②(思考・判断・表現力)	③(学びに向かう力・人間性)
1年生	①自分が感じたことや行ったことを通して、形や色に気付けるようにする。	②自分から表したり、見たりすることができるようにする。	③楽しく形や色などに関わる中で、進んで活動に取り組む態度を養う。
6年生			
評価方法	共通 ・好きな色を選んだり、道具を自分から手に取って活動ができている。(観察) ・つくり方や表し方を工夫して作品をつくっている。(観察・記録)		

図8 年間指導計画（シラバス）修正前

とができるように、「人的な活用」、「物的な活用」の欄も設けた。

今後、年間指導計画（シラバス）は教員間の共通理解を図るための資料としてだけでなく、保護者や地域にも公開して、本校の教育活動についての理解を図るための資料としての活用も考えている。

(3) 年間指導計画（シラバス）

下の図9は、各教科等の「目標」、「学習内容」、「人的・物的資源の活用」、「他教科との関連」、「評価」等年間指導計画の概要が分かる資料である。

ア 本校重点目標

教員が重点目標と指導内容との関連を意識できるようにするため、上段に重点目標を記載して常に確認することができるようにしている。

教科の目標や学年の目標は、重点目標を踏まえて作成している。

イ 人的・物的資源の活用

児童・生徒の学びに効果的である外部・内部の人的・物的資源を記している。各単元における人的・物的資源の関わりが分かり、他学年での系統的な学びを考える際に、人的・物的資源を効果的に活用するための参考としている。

ウ 他教科等との関連

関連のある教科等の学習内容を記載している。教科等横断的な視点をもった授業を計画する際の参考としている。

エ 評価

それぞれの教科では、どのような観点でどのように評価しているのかといった点について、教員間の共通理解を図るために、評価の方法を明確に記載するようにしている。

オ 更新履歴

更新した月日を記入する。児童・生徒や学校の実態を基に、年間を通じて定期的に加除修正し、実態に即した年間指導計画（シラバス）とする。また、年度末には児童・生徒の学びの履歴ともなる。

小学部		ア 教科の年間計画とカリキュラム・マネジメントとの関連				
第1段階 図画工作科		本校重点目標 自分の仲間を大切にし、ともに活動する力を育てる。				
教科の目標	知識・技能(1)	形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくり出すことができるようにする。				
	思・判・表(2)	造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。				
	人間性の涵養(3)	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。				
一段階目標	知識・技能(1)	形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。				
	思・判・表(2)	表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。				
	人間性の涵養(3)	進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。				
学期	月	指導 時数	単元名	イ 人的な活用	ウ 物的な活用	エ 他教科等との関連
1 学期	4	4	好きな色で描こう	学校図書室司書	学校図書室	国語：読み聞かせ「あおくときいろちゃん」
	5	8	こいのぼりをつくろう		人形工房	音楽：歌唱 生活単元学習：季節の行事
	6	8	アジサイをつくろう	花屋	公園	生活単元学習：植物観察
	7	6	いろんな色の水をつくろう			
2 学期	9	8	お月見をしよう	学校栄養士	和菓子屋	生活単元学習：調理 音楽：歌唱
	10	8	おいもをほろう	農家	農場	生活単元学習：調理 音楽：歌唱
	11	8	運動会応援グッズづくり	応援団員	近隣高校	行事：運動会
	12	6	雪の版画	学校図書室司書	学校図書室	国語：読み聞かせ「ごろんごゆきだるま」
3 学期	1	2	しろくろで描こう	書写専科の教諭	書道教室 美術館	国語：書字
	2	4	粘土をこねよう	陶芸家		
	2	4	鬼の顔づくり	役者		行事：節分集会
	3	4	かばんの模様付け		鞆屋	生活単元学習：鞆づくり
評価	エ 興味・関心		・様々な材料に積極的に触れて、主体的に造形活動に取り組んでいる。(発言、行動、振り返りシート)			
	イ 創造的な技能		・描く、切る、塗る、貼るなどの活動の際に自分なりの工夫ができています。(行動、作品)			
	ウ 発想と構想の能力		・形や色に自分なりのイメージをもって作品づくりをしている。(発言、行動、作品)			
オ 鑑賞		・作品などに注目し形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。(発言、行動、振り返りシート)				
備考 更新履歴 年 月 日						

図9 年間指導計画（シラバス）修正後

### 3 研究のまとめ -開発物について-

各研究協力校において検証し、改善案を反映させたカリキュラム・マネジメントセルフチェックシート及び改善例等は、各教員が短時間で回答でき、自己の評価結果を即座に処理して活用することができるように、電子データで開発することとした。また、どの学校でも使用することができるように、都内公立学校で多く導入されている表計算ソフトを用いた。

#### (1) 開発物の構成について

##### ア 「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート」について

本シートは、カリキュラム・マネジメントの三つの側面（「教科等横断的な視点で組み立てる」「教育課程の実施状況を評価してその改善を図る」、「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保する」）を基に、「教科等横断的な視点について」、「人的資源について」、「物的資源について」の三つの観点を設け、それぞれPDCAの段階で日々の教育活動について自己の評価ができる3種類のシートを作成した。各シートには、設問を12問ずつ設定した。

##### イ 「改善例等」について

研究協力校の各教員に回答を依頼したカリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの試行結果を基に、考えられる課題例とそれに対応した改善例等を作成した。これら設問、考えられる課題例や改善例等は、各教員が授業改善等に役立てることができるよう、複数提示することとした。また、改善例等は、研究協力校とともに作成した事例も含め具体的な事例として参照できるようにした。（図10）

##### ウ 研究協力校のカリキュラム・マネジメントに係る実践事例について

具体的な事例として、研究協力校の工夫ある取組である「グランドデザイン」、「年間指導計画一覧」、「人的・物的資源リスト」、「年間指導計画（シラバス）」についても表計算ソフトで電子データとして掲載した。これらは各学校の実態に応じて編集することが可能である。

##### エ 教員全体のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の傾向について

学校は、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートに回答した教員のデータを自動集計することによって、自校の教員のカリキュラム・マネジメントに係る集団の傾向を確認することができる。また、三つの観定のそれぞれについて、PDCAの段階ごとに平均と度数分布で表示したり、教員の経験年数ごとに分けて表示したりすることもできるため、様々な観点から多面的にカリキュラム・マネジメントに係る教員の意識や取組の状況を確認できるものとした。

##### オ 編集について

カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの設問、考えられる課題例、改善例等は、校種や職層、教員経験年数が異なっているにもかかわらず、授業改善等に役立てられるものとなるようにした。

しかしながら、カリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の状況は学校によって様々であるため、各学校の実態に応じて活用することが困難なことが生じる可能性もある。そこで、各学校の実態に合わせた設問の設定や改善例への具体的な事例の掲載等、内容を各

学校において編集できるようにした。

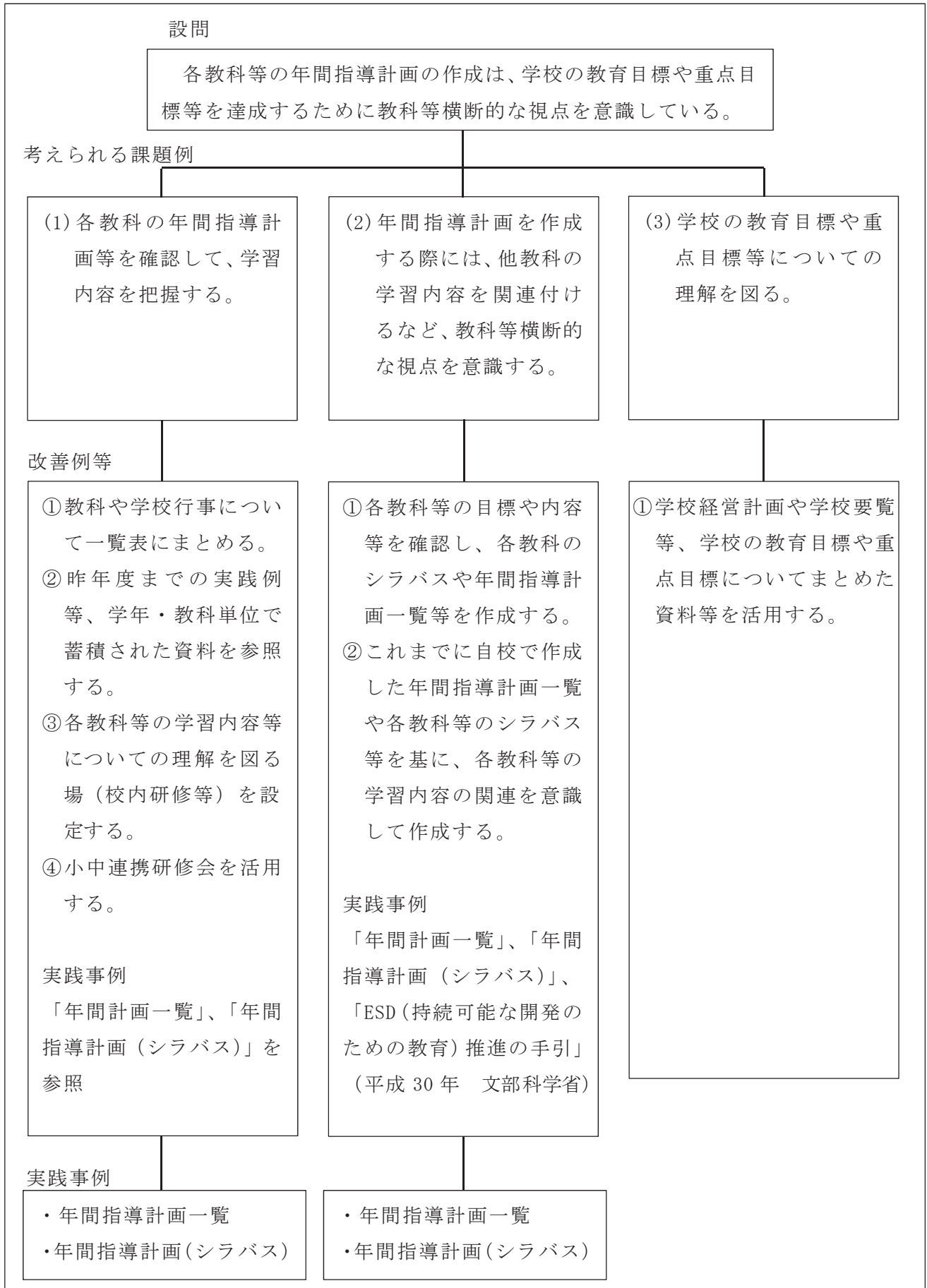


図 10 設問、考えられる課題例、改善例等のフロー図の例

— つながり重視した学校の特徴づくりを通して —

(2) 「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート」について

カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの設問は、「教科等横断的な視点について」、「人的資源について」、「物的資源について」の三つの観点に関して、P（編成）、D（実施）、C（評価）、A（改善）の段階に分けて構成している。（図 11）

ア 自己の評価をする観点等

「観点」、「回数（1回目又は2回目）」、「名前」、「職層」、「経験年数」の記入欄を設けている。

各項目はメニュー画面で入力すると、自動的に反映される。

イ 回答欄

各設問について、5段階で自己の評価をする。

星の数で簡単に評価できるようにした。星をクリックすると色が付く。

ウ 改善例等

各設問について、自己の評価の結果、見いだした課題について解決につながられるよう、改善例等を参照できるようにした。

P D C Aと書かれた矢印のアイコンをクリックすると、改善例等が表示される。

エ チャート図

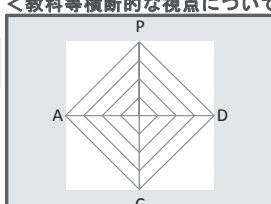
設問に全て回答すると、その結果をP D C Aそれぞれの段階別のチャート図で表示される。チャート図から、自身のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の状況を視覚的に捉えることができる。なお、回答者が設問に対してより肯定的に自己の評価をすることで、チャート図内の四角形が外側に広がっていく。

オ 保存、印刷について

それぞれのシートは、全ての設問に回答すると自動的に保存される。また、シートの枠外に「印刷する」のボタンがあり、クリックするとシートを印刷することができる。

ア		カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート		氏名	職層	ウ
		<教科等横断的な視点について>		1回目	経験年数	
※質問に対して、御自身の取組に一番近い☆をチェックしてください。						
		設問	回答欄		改善例等	
				当てはまらない	当てはまる	
P	1	学校の教育目標や重点目標等を十分に理解して教育活動を行っている。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	2	各教科等の年間指導計画の作成は、学校の教育目標や重点目標等を達成するために教科等横断的な視点を意識している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	3	各教科等の評価について計画する際、それぞれの教科等でどのような評価方法を用いているか確認することを意識している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
D	4	日々の授業で把握した児童・生徒の学習状況を基に、教科等横断的な視点を意識して指導している。	☆ ☆ <b>1</b> ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	5	日々の授業で把握した児童・生徒の学習状況を基に、学年や他校（園）種の系統性を意識して指導している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	6	日頃から、評価に活用するために評価規準を明確にして児童・生徒の学習や活動の状況を記録し、蓄積している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
C	7	児童・生徒の資質・能力が育成されたかについて、学習や活動状況の記録やテスト等を基に評価をしている。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	8	自分自身の授業について毎時間評価し、計画的に授業改善を行っている。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	9	各教科等の指導は、児童・生徒の学習到達度や児童、生徒、保護者対象のアンケート等を基に、客観的に評価している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
A	10	児童・生徒の評価を基に、指導計画（年間、単元、一単位時間等）や指導方法を改善して、次の授業に臨んでいる。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	11	児童・生徒の評価や、他教科等との関連を意識して単元の配列を検討し、各教科等の年間指導計画を改善している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA
	12	学校行事の改善案を作成する際、各教科等との関連を意識して効果的な指導計画等を検討している。	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆	PDCA

**エ** <教科等横断的な視点について> ○教科等横断的な視点について



学校教育目標等の実現に必要な教育の内容等を選択し、各教科等の内容相互の関連を図りながら指導計画を作成したり、児童の生活時間と教育の内容との効果的な組み合わせを考えたりしながら、年間や学期、月、週ごとの授業時数を適切に定めたりしていくこと

図 11 カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート



### (3) 「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの結果」について

右の図 12 は、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの回答結果を表したものである。

カリキュラム・マネジメントの三つの観点を基に作成した3種類のシートは、それぞれ年間2回実施することができる。各観点の回答結果は、チャート図に2回分を重ねて表示される。

これにより、教員自身が自己のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の変容を捉えることができる。

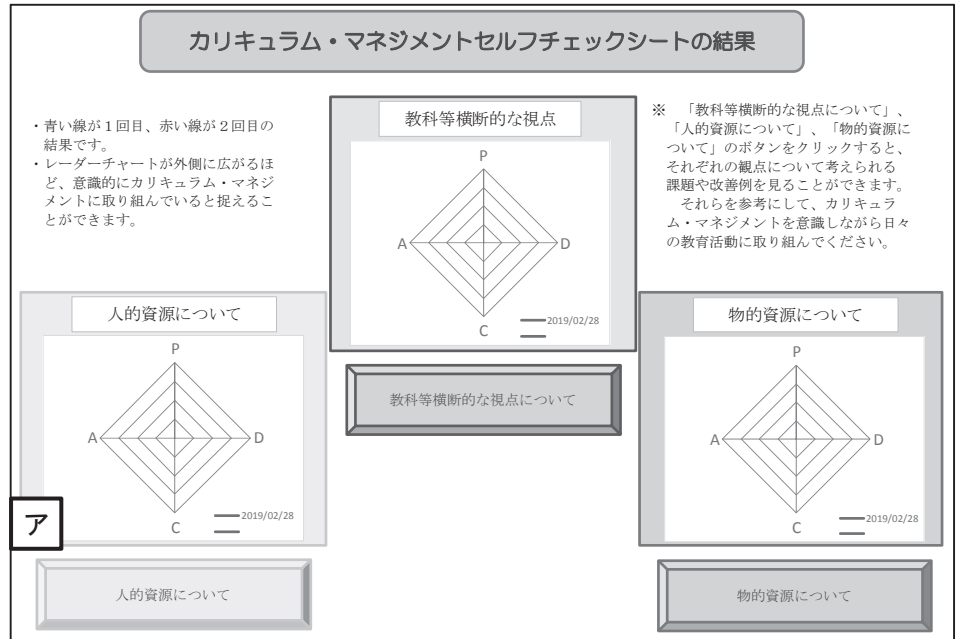


図 12 カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの結果

#### ア 改善例等

レーダーチャートの下にあるカリキュラム・マネジメントの三つの観点が記載されているボタンをクリックすると、改善例等が表示される。

### (4) 「改善例等」について

下の図 13 は、設問ごとに考えられる課題例、課題に対応した改善例等や実践事例を表示するウィンドウである。カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの矢印のアイコンや「カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの結果」の画面上の三つの観点が記載されているボタンをクリックすると表示される。

#### ア 設問

「教科等横断的な視点について」、「人的資源について」、「物的資源について」の各設問のうちから該当するものを選択する。

#### イ 考えられる課題例

選択した設問に対して、考えられる課題例のうちから該当するものを選択する。

#### ウ 改善例等

図 13 改善例等（教科等横断的な視点について）

選択した課題例に対応した改善例が表示される。また、研究協力校の事例も表示されるので参照することができる。

## エ 研究協力校の事例

研究協力校の工夫ある取組である「グランドデザイン」、「年間指導計画一覧」、「年間指導計画（シラバス）」、「人的・物的資源リスト」を事例として掲載した。

これらの事例は、各学校において教員のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の向上に資するための参考資料として活用することができる。

### (5) 「教員全体のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の傾向」について

右の図 14 は、学校における教員全体のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の傾向について、チャート図や度数分布図等で表したものである。

教員全体の傾向から明らかになった改善が必要な項目についての改善策を考える際に、参考となるような改善例を示した。一例として、学校において改善のポイントを焦点化し、改善の方向を共通

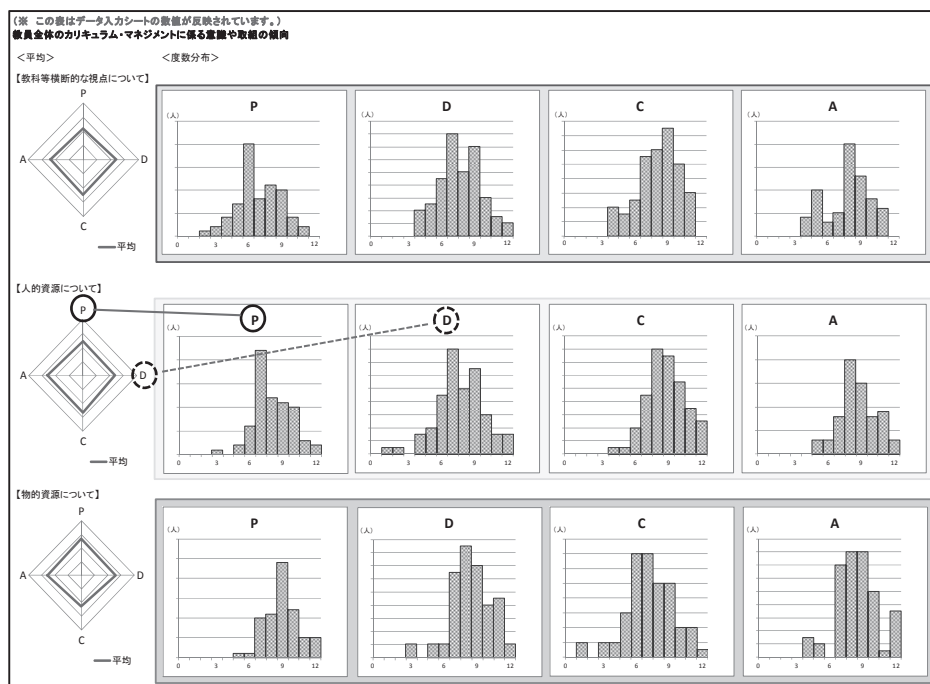


図 14 教員全体のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の傾向

理解して学校全体で一丸となって取り組むための資料として活用することが考えられる。

また、図 14 の【人的資源について】の P（編成）と D（実施）のように、チャート図における教員全体の回答結果の平均値がほぼ同じでも、度数分布図におけるばらつきの程度を併せて見ることで、学校全体のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の状況の違いを捉えることができるように、二つの図を用意した。これらは、校内における研修計画や人材育成の参考として活用することもできる。

#### ア 平均

右の図 15 は、「教科等横断的な視点について」に関する教員全体の回答結果の平均をチャート図で表したものである。四角形が中心から外側に広がるほど、教員全体の平均値が高いことを表している。平均値が高ければ、教員集団のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の度も高いと捉えることができる。

例えば、図 15 の場合は、C（評価）や A（改善）の段階に比べて P（編成）や D（実施）の段階の方が平均値が低いことから、P（編成）や D（実施）の段階における教員の意識については、

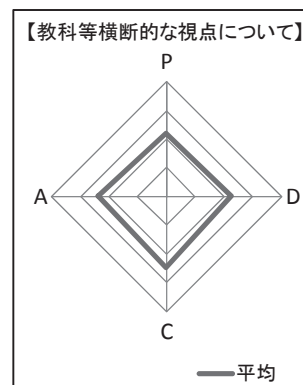


図 15 チャート図（全体）

改善点として捉えることができる。

## イ 度数分布図

下の図 16 は、ある観点に関する教員全体の回答結果を度数分布図で表したものである。教員全体のカリキュラム・マネジメントに係る意識や取組の度合いの集中とばらつきを把握することができる。

例えば、図 16 の場合、C（評価）やA（改善）の段階と比べて、D（実施）の段階は、ばらつきが大きいことから、D（実施）の段階に対する教員個々の意識の差が大きいことを読み取ることができる。

このように、各学校で回答結果を分析し、各段階において直ちに改善できるものは改善し、改善に時間を要する項目については、カリキュラム・マネジメントの観点から継続的に改善していくことが大切である。

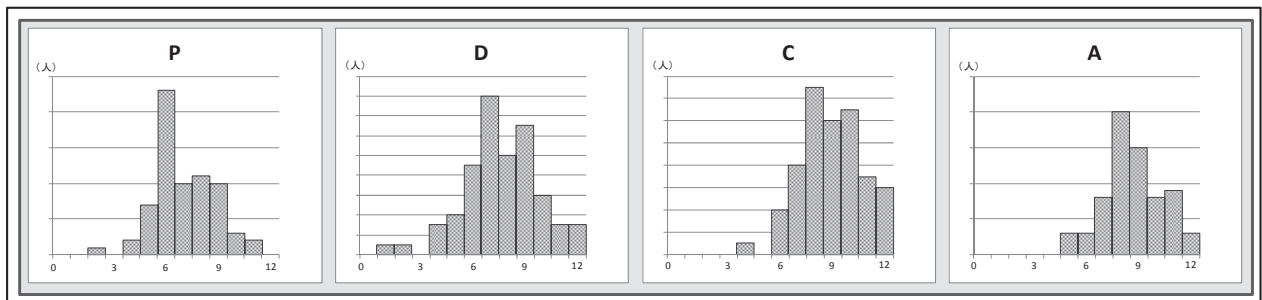


図 16 度数分布図（集団）

## ウ 編集

右の図 17 は、設問、考えられる課題例、改善例等の編集フォームである。

三つの観点の設問は、全て加除修正することができる。また、各設問に関して否定的な回答であった場合に考えられる課題例とそれに対応した改善例についても、全て加除修正することができる。

編集フォームにおいて加除修正を行った後、更新ボタン

をクリックすることで、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの内容を一括して更新することができる。

以上の操作により、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等を自校の実態に応じたものに編集することができる。

図 17 編集フォーム

## 第5 研究の成果と今後の取組

### 1 研究の成果

研究協力校で行った教員対象のアンケートにおいて、「教員間での共通理解や教科等横断的な視点での指導は日頃から心掛けているが、カリキュラム・マネジメントを意識して指導計画等を作成することは少ないと感じた。広い視野で指導できるようにしたい」、「授業に臨む自分の姿勢を振り返ることができた。常によりよい授業を行うことを考えて、自分の成長につなげたい」というような意見があった一方で、「カリキュラム・マネジメントの必要性は分かるが、今でも教える内容が多岐にわたる中で、さらに教科等横断的な視点についても考えなくてはならないとなると、不安である」、「設問を全て読み、理解し、考えた上で回答すると、とても時間がかかってしまう」、「簡単に、短時間で結果が出るような設問にしてほしい」というような意見もあった。

このようなカリキュラム・マネジメントに対する考えや捉えは、学校現場における貴重な意見としてカリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等を開発するに当たり、参考とした。

そこで、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの開発に際しては、各教員が本シートに回答することで、これまでの教育活動を振り返り、カリキュラム・マネジメントを意識して各自が担当する教育活動における「PDCA」を行っていけるようにした。具体的には、各自の考えられる課題例に応じて複数の改善例を提示し、可能なところから改善につなげられるような資料を提示できるようにした。

また、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシートの回答に費やす時間を可能な限り少なく、簡便に自己の評価等ができるようにすることを目指して開発した。そこで、本シート等は全て電子データで開発し、大部分をクリックのみで操作できるようにしたり、三つの観点ごとにチェックができるようにシートを3枚に分けたりするなどの工夫をして、簡便に自己の評価結果が分かる資料を開発することができた。

さらに、研究協力校の工夫ある取組を可視化した資料「グランドデザイン」、「年間指導計画一覧」、「年間指導計画一覧（シラバス）」、「人的・物的資源リスト」についても掲載した。

以上のような取組により、各学校・各教員が、カリキュラム・マネジメントを推進するために、参考として活用できる資料を開発し、提示することができた。

### 2 今後の取組

本研究は、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等を活用することで、各教員がカリキュラム・マネジメントを意識してこれまで行ってきた教育活動について振り返り、価値付けすることや、児童・生徒にとってより豊かな学びとなるようにカリキュラム・マネジメントを通じて教育活動を充実・改善につなげること等を目指したものである。

今後は、各学校にカリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等の電子データを配布するとともに、より幅広く活用することができるよう、当センターWeb ページにも電子データを掲載し、必要に応じてダウンロードできるようにすること等を通して普及・啓発を行う。

さらに、学校等からの依頼に応じ、カリキュラム・マネジメントセルフチェックシート等の活用の仕方、学校の課題を改善できた事例の紹介、各学校の実態に応じて編集されたセルフチェックシートや改善例の紹介等、カリキュラム・マネジメントに係る教員の意識や取組の向上を図る研修会の実施等を計画している。